

「山上げ祭」(外で見る歌舞伎)の地域活用

事業代表者(教育学部・教授・渡辺浩行)

構成員(教育学部・教授・松本 敏 / 教育学部・教授・中島 望)

1. 事業の目的・意義

本研究の目的は、ユネスコ無形文化遺産登録候補である栃木県那須烏山市*¹の「山上げ祭」の映像記録を教育、観光、国際交流、産業振興のために活用することである。

*¹那須烏山市と宇都宮大学は平成17年に相互友好協力協定を締結し、相互発展をめざし、文化、産業、環境、教育、福祉、生涯学習、観光、国際交流等の分野において援助・協力をし、これまで8つの事業に着手してきた。

2. 研究方法(又は事業内容)

(1) 事業内容

「山上げ祭」が持つ文化的、伝統的、芸術的、教育的価値を調査研究し、これまでに蓄積された記録(主に映像)を整理する。そのうえで、さらに必要な映像を録画し、豊かな映像リソースをもとに教育、観光、国際交流、産業振興の目的でビデオクリップを編集する。編集したビデオクリップは、インターネットやDVD(あるいはUSB)で視聴できるようにし、市内の小中高での授業(社会科や英語科など)、市の観光資料、姉妹都市などとの国際交流、市の産業振興(観光客誘致)等において有効活用する。魅力的なビデオクリップ作成のために、地域の人々を数多く登場させ、日本語版だけでなく英語版も作成する。

(2) 事業スケジュール

以下のスケジュール(予定)で事業を実施した。

- ①過去の「山上げ祭」の映像記録の調査分析研究と整理(～7月)
- ②①を踏まえての本年度の「山上げ祭」の録画(7月25～27日)
- ③ビデオクリップの編集方針作成とそれにもとづいたサンプルビデオクリップ作成(～8月)
- ④サンプルビデオクリップのパイロット使用、アン

ケート調査、調査結果にもとづく内容検討(～9月)

⑤ビデオクリップ作成に必要なナレーション作成(～10月)

⑥本格的なビデオクリップを約30本作成(～12月)

⑦⑥のビデオクリップの最終調整・配布計画作成(～2月)と関係各位への配布(～3月)

3. 事業の進捗状況

「2.(2)事業スケジュール」の中で、④⑤以外は大方向予定通り事業を実施することができた。スケジュールの④⑤が実施できなかった主な理由は次の通りである。

ビデオクリップ編集とその解説(英語版)作成にあたり、その方針決定も含め、思いのほか手間暇がかかった。予想以上の時間と労力がかかったことに伴って、当初の予算での編集・作成数をかなり絞る進捗状況となった。

また、そのことが原因で、地域の人々を新たに編集・作成に多く登場させることはできなくなってしまった。だが、限定はされているものの、編集したビデオクリップやその解説には、地域の人たちのいろいろな姿を映し出すことができた。

当初の予定ではビデオクリップを約30本作成することになっていたが、結果として16本の作成にとどまった。その原因の一部は、すでに述べたように、予想以上の時間・労力・予算を必要とする進捗状況が生じたためである。

しかし、ビデオクリップ作成数16本という結果は実質のところ30本相当に値している。何故なら、以下の「4.事業の成果」の「表1.ビデオクリップ・英語版解説の内訳」が示すように、教育目的で作成

したビデオクリップは5本であるが、中1, 2, 3の3学年で使用できるように、時間をかけ丁寧に編集し、実質は15本(3学年×5本)のビデオクリップに匹敵するものになったからである。当初は、各学年別に編集して15本程度と見込んでいたものだが、ビデオ編集過程と編集方針の見直しで、学年が異なっても、同一のビデオクリップを使用した方が見やすく、分かりやすく、活用しやすいと判断するに至ったためでもある。その代わりに、英語版解説を中1, 2, 3年の学年別で作成し、生徒の英語レベルに沿うように配慮した。

また、ビデオクリップ16本と英語版解説24本は、教育、国際交流、観光、産業振興のほぼどの目的でもそのまま利用できるように工夫して編集・作成している。当初は目的別に違うものを考えていたので、このことは、前記のことと同様、事業の進捗状況から判断して柔軟に対応した結果である。

4. 事業の成果

(1) 成果物

具体的な成果物としては次のものが得られた。

- ① ビデオクリップ 16本
- ② 英語版解説 24本

ビデオクリップ16本、英語版解説24本の内訳は次表のようになる。

テーマ	ビデオクリップ	英語版解説	使途目的
那須烏山市紹介	5本	5本	教育
祭り紹介・エピソード	6本	7本	国際交流
祭り演目	5本	12本	観光
計	16本	24本	産業振興

表1. ビデオクリップ・英語版解説の内訳

テーマの簡単な解説をすると、「那須烏山市紹介」では、那須烏山市の四季を通しての風物・名所・名産品・行事がコンパクトに紹介されている。「祭り紹介・エピソード」では、祭りの由来・歴史、祭り当日の様子、祭りに関わる物・人たちがエピソード風に編集してある。「祭り演目」では、山上げ祭りで上

演される演目のうち「子宝三番叟」「関の扉」「将門」「戻り橋」「蛇姫」の5つがダイジェスト版で編集されている。

以下に続くのは、本事業の成果物にあたるビデオクリップ(静止画として掲載)と英語版解説の一部具体例である。教育目的の場合(祭りの演目の例)は、前述したように、同一のビデオクリップに対して、英語版解説を3学年の3つの英語レベルに分けて作成しているの、それがわかるように中1, 2の各版の一部を提示している。



市の紹介の例(ビデオクリップ 1)

... one feature of summer in Karasuyama City is Yamaage Festival. The middle day of this three-day festival is always the fourth Saturday in July. Six areas take turns being as the host of Yamaage Festival. Yamaage Festival is distinguished as its largest outdoor play in Japan...

市の紹介の例(英文解説)



祭りエピソードの例 (ビデオクリップ 2)

Hayashikata is a music band. You can see it in Japanese traditional festivals. Usually there are seven members in one band of Hayashikata in our Yamaage Festival. Mr. Sato is one of the Hayashikata members and plays the bamboo flute...

祭りエピソードの例 (英文解説)



祭り演目の例 (ビデオクリップ 3)

中1 レベル

Hori Shinzaemon, a minister of Karasuyama, was not doing good things his people. So Princess Oroku of Karasuyama wrote a letter to her father, Daimyo of Karasuyama, in Edo. Then, she said to her maid Kaede, "Take this letter to my father in Edo." When Kaede was walking in the mountains, she saw two samurais. ...

中2 レベル

Princess Oroku of Karasuyama wrote a letter to her father, Daimyo of Karasuyama, in Edo. In the letter she said that her father's minister, Hori Shinzaemon, was doing very bad things to people in Karasuyama. After writing the letter, she said to her maid Kaede, "Take this letter to my father in Edo." When Kaede was walking in the mountains, ...

祭り演目の例 (英文解説, 中1・中2)

(2) 地域活用

① ビデオクリップ作成過程における地域活用

- ・那須烏山市山上げ保存会(那須烏山市文化振興課)と連携しての過去の記録の調査分析研究
- ・教育, 観光, 国際交流, 産業振興活用の可能性の検討(那須烏山市役所の各課)
- ・地域の人達の活用(映像での登場)

② 作成ビデオクリップの地域活用

- ・小中高の授業での使用(効果調査による改訂版検討資料作成)
- ・市のホームページやインターネット上(YouTubeなど)での公開による市の観光, 姉妹都市などとの国際交流, 市の産業振興(観光客誘致)での活用
- ・成果についての県内外での広報やセミナーや学会での発表

(3) 教育活用

① 地域の人材育成

- ・当市の人達にとって、ビデオクリップの作成やそれらを使用している場面に関わることは、「地域の人材活用」になり、地域に生き、地域を大事にする「地域の人材育成」につながる。

② 成果物の大学での活用

- ・大学HPやUUプラザでのビデオクリップ紹介により、本大学の地域貢献活動の広報にあてる。
- ・以下の授業での活用(教材の一部として)
基盤教育, アクティブラーニング科目—「EPPU(英語の教材)」「栃木県の歴史と文化」「ものと文化と社会」.

教育学部—「情報処理(地域行事のデジタル化)」

「民衆文化論」「芸術文化領域入門演習」「芸術表現演習」「社会科教育法」「小学校外国語活動の理論と実践」「英語科教育法」「地域の歴史」「歴史と文化」「地域分析基礎論」.

国際学部—「芸術文化論」「日本文化論(歳時編)」

「視聴覚教育メディア論」「地域研究論」.

5. 今後の展望

本事業は、その事業目的に沿った事業内容を概ね

実施し達成できたと言える。だが、「3. 事業の進捗状況」で触れているように、予想以上の時間・労力・予算が必要となったため、事業全体が成果物（ビデオクリップと英語版解説）の作成段階で終わる結果となってしまった。したがって、成果物の教育、観光、国際交流、産業振興のための具体的活用についてはこれからの取り組みとなり、その取り組みの結果得られる、成果物の利用価値と改善点の特定は今後の課題となる。

その課題に取り組むことが今後の展望であり、その展望のもとで、以下の【本事業の狙い】をさらに達成できるようにしていきたい。

【本事業の狙い】

家族、親子三代、幼い自分と今の自分が写った映像、祭舞台の表裏、祭準備の様子などにおける「人々の姿」を通して地域の文化、伝統、芸術、教育を発信し、それが伝わるようにする。大人はもちろんのこと、小中高生が愛着と誇りを持って自分の地域を紹介できるストーリー性のあるビデオクリップの作成を図る。